

神奈川大学21世紀COEプログラム  
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書

Report on the Results of “Systematization of Nonwritten Cultural Materials  
for the Study of Human Societies” Kanagawa University 21<sup>st</sup> Century COE Program

# 東アジア生活絵引

朝鮮風俗画編

Pictopedia of Everyday Life in East Asia  
compiled from the Joseon Period-Genre Paintings

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議  
The Kanagawa University 21<sup>st</sup> Century COE Program Center

# まえがき

絵引という言葉は、日本の大きな国語辞典にも見出し語として出てこない単語です。従って、日常用語としては全く使われることはなく、その意味を多くの人は知らないといってしまう。それほど新しく、また狭い世界でのみ用いられる言葉なのです。この言葉が登場したのは今から40年前のことで、財団法人日本常民文化研究所が編纂した『絵巻物による日本常民生活絵引』によってです。それは、単語を見出し語にした旧来の字引に対して、絵を窓口にするという方式を示すものでした。

『絵巻物による日本常民生活絵引』全5巻は、日本中世の絵巻物を素材として、描き込まれた生活を示す事物や行為を取り出し、それに語彙を与えて示すというものでした。絵引は、文字で記録された文書記録からうかがい知ることができない具体的な事物や人々の行為を教えてくださいました。次第にその価値が知られるようになり、今や日本中世の生活文化を考える際の必須の研究工具となっております。神奈川大学に引き継がれた研究所は、改訂版を刊行しましたが、新版も多くの人に受け入れられ、今も版を重ねています。

私たちが21世紀COEプログラムに申請するための研究計画を検討した折、先ず最初に決まったのが『絵巻物による日本常民生活絵引』を継承発展させるという課題でした。具体的には、第1に『絵巻物による日本常民生活絵引』を英・中・韓・日の4カ国語で利用できるマルチ言語版の編纂、第2は中世絵巻物による絵引を継承発展させる日本近世・近代生活絵引の編纂。そして、第3の課題として、絵引という編纂方式が日本以外の文化においても可能かどうかを検討する東アジア生活絵引の編纂でした。

第3の課題である東アジア生活絵引編纂は、中国および朝鮮半島における18世紀を中心とした時期の図像による絵引編纂を構想しました。研究を開始してみると、それぞれの文化、それぞれの時代によって、図像のあり方には大きな相違があることが分かってきました。日本では当たり前と考えられる図像と人々との緊密な関係も異なりました。絵引編纂という共同研究は困難を極めました。朝鮮半島、中国それぞれ適切な図像資料を獲得して、研究を展開することができました。

本書は、朝鮮時代に制作された風俗画を素材として編纂した東アジア生活絵引の1巻です。朝鮮時代には、多くの風俗画が描かれました。それらは人々の日常生活を温かい眼差しで描いております。それらの風俗画を資料に、生活の具体相を把握できる絵引の編纂を試みました。異なる文化について絵引を編纂することは非常に難しいことです。本書の編纂に際しましては、種々の工夫と努力をしましたが、十全に朝鮮時代の生活文化を把握し、示しているとは言えません。あくまでも試験的な段階の試案本です。本書を手にした皆さんには、どうか忌憚のない意見をお寄せいただきたいと思います。

最後に、本書編纂に際して、様々な便宜を与えてくださり、またご教示くださった韓国の各研究機関・関係者の皆さんに深く感謝の意を表します。

2007年12月

神奈川大学21世紀COEプログラム第1班代表  
福田 アジオ